

延浄寺だより

平成27年 秋彼岸

FAX 03・3326・7337
03・3326・2797
03・3326・5037



位職 網代 正孝

秋彼岸

9月20日から26日

阿弥陀様に合掌してからお墓参り

お中日23日正午から合同法要

そのあと法話

お話は親鸞聖人の関東在位の研究をされている若手ホープ 来恩寺 橋本順正師もし親鸞聖人が現世を親たら「何を思い何を語る」だろうか そのようなお話になると良いと思いました。

今年の夏は特に暑い日が続きましたが、皆様はいかがお過ごしでしたか、でも、もう秋のお彼岸です。お彼岸はご先祖に感謝し、その思いを阿弥陀様にお任せする一週間です。

ご先祖は阿弥陀様の光の中で私たちを支えます。ご来寺の折りは、まずご本堂の阿弥陀様に合掌し、そしてお墓まいりです。

ご先祖に感謝しすべてを阿弥陀様に任せると「他の大きな力に支えられている」心の安定感がえられます。お彼岸は阿弥陀様の光の中で、故人やご先祖とふれあう時です。皆様でお出かけください。

法話

12時45分〜13時25分

親鸞聖人の東国での滞在に関してあまりよくわかっていません。橋本順正師はここを研究されている浄土真宗本願寺派総合研究所の若い研究者です。親鸞が今の世に生きていれば何をされるのかという視点で従来とは少し変わった面でのお話になるかと思えます。以下お話の内容です。

「親鸞聖人伝承とその意義」

浄土真宗本願寺派総合研究所 研究助手
東京教区鎌倉組来恩寺 橋本順正



昨年度は親鸞聖人が関東・東国で布教を始めてから800年目の節目の年でした。私はその関東・東国の真宗史、特に親鸞聖人とその門弟が活躍した時代について研究しています。親鸞聖人の伝記として一番古いものは、聖人のひ孫・覚如上人が書かれた『親鸞伝絵（御伝鈔）』です。親鸞聖人の動向を知



お墓参りの効用

———お墓参りでは感謝の心が養えられる、自分の内面を見つめ生きてゆく方向が見えてくる。自己反省ができる。———

お墓参りは「お世話になった人・親しかった人・懐かしい人等など」の墓前で感謝をします。何に感謝をするのか、朝起き

るための基礎となる史料です。

関東・東国で何をしていたかということについて、親鸞聖人自身は何も語っていません。しかし近年、今井雅晴氏（筑波大学名誉教授）をはじめとした史学的なアプローチによる研究が進み、関東・東国における親鸞聖人像が明らかになってきました。その研究方は、同時代の文献から中世の人々の生き方や考え方を明らかにし、単なる後代の創作だと言われてきた「伝承」というものに新しい角度からの見方を与えていくものです。

親鸞聖人の旧跡地や、二十四輩と呼ばれる門弟たちの寺院に残る「伝承」は、江戸時代以降にまとめられたものがほとんどです。その内容を歴史的事実として鵜呑みにすることは出来ません。しかしその「伝承」が生まれた背景には、当時の人々の想いが込められています。そういった情報を精査し「伝承」の中に表れた親鸞聖人像を再検討することが今、求められています。

た時から、ご来寺の道々で故人の思い出に触れながら来られると良いでしょう。花と線香を供えてお墓参りです。そして感謝の気持ちをお祈りしてお任せするのが墓参りです。だからお墓には南無阿弥陀仏と刻字されています。阿弥陀様が私に任せなさいと呼び掛けてくれているからです。

「ありがとう」と言われればうれいものです。これは故人も同じで亡くなっても思い出され感謝されればうれしいわけです。阿弥陀様の光の中で、また南無阿弥陀仏の呼び声の中で、故人はあなたを支えています。

だからお墓参りをするとなぜか気持ちが出ます。元気が出てくるのです。

浄土真宗には「神祇不拝（じんぎふはい）」という言葉があります。仏教以外の神々を拝まないという意味です。しかし親鸞聖人の「伝承」には、神社や神様の話も多く出てきます。つまりそれらの信仰を否定したわけではありません。明治時代までは、寺院と神社は同じものとして考えられていました。このように「神祇不拝」という言葉一つをとっても、時代によって捉え方に差があります。現在の価値観で歴史を捉えようとすると、間違った認識をしてしまうおそれがあります。

私の仕事は「伝承」の意義とそこに込められた人々の想いを、今の時代に合った形で発信していくことです。伝統を尊重し、先人たちの声に耳を傾けながら、今ここに親鸞聖人がいたら何と云うのだろうか、常に思いを巡らせています。そのことを皆さんと一緒に味わっていくことが出来たら、嬉しく思います。

恒例のお汁粉・福引は
23日(お中日)だけです

今回は彼岸の入りからお中日まで連休です。合同法要はお中日の23日だけです。お汁粉の接待も23日だけです。お彼岸の期間中は会館を開放しています。

お弁当を持ち寄りで、親せきなどがお昼を共にするのは結構なことですよ。

どうぞ会館1・2階を自由にお使いください。お茶はセルフサービスです。

(ただし23日は使用できません。また場所の予約はできません)

お寺は孫・子の代まで縦の命をつなぐ場です。お寺は縦のいのちのパワースポットです。当寺は若い人たちが沢山来られます。特に8月盆は子供を連れて小学生と両親・祖父母の墓参りが目立ちました。寺に来れば子供たちに感謝の心が育ちます。

寺に来るだけで絆やふれあいが深まります。23日のお中日以外の連休を、ふれあいに有効にお使いください。

介護が必要「どうしよう!」

日本とフィリピンが共に助け合う「日本フィリピンボランティアネットワーク」(JPNVN) 結成

「在宅介護の助け人です」

急に介護が必要になったがどうしてよいかわからない、このまま老老介護が続くともう限界だ。そんな時に緊急支援ということで調布に「日本フィリピンボランティアネットワーク」をつくり、フィリピンからボランティアで青年海外協力隊に来てもら

ことにしました。当寺で活動資金の一部を支援しています。

日本フィリピンボランティア協会に所属し日本語で介護のできる若者が2名一組になり、在宅介護の支援・家事労働の支援の家庭訪問をします。

就労で来日しているわけではありませんが、生きるために必要なお手伝いをする深刻な生活ボランティアです。日比の相互支援活動です。関心のある方は寺に電話ください。9月中旬から始める計画です。経費は立ち上げは当寺で支援しますが、その後は受益者負担をどう進めるのか今後の課題です。関心のある方、ご希望者は連絡ください。

また10月ダバオに行かれて、帰りに一緒に帰ってくることも良いかもしれません。電話を頂ければ詳細に説明いたします。

ダバオで安心・安全・安価の介護

高齢になればなるほど、つらいことが多くなり、自分の力ではどうしようもない場合が出てきます。介護で困った。どこか入れるところはないだろうか、そのような相談が急に多くなりました。数千円のお金があれば別ですが、年金生活ではなかなか有料ホームには入れません。と言って福祉法人の施設はどこも満員です。ではどうするか、すぐに可能な良い案があるのです。

またダバオかと思われるかもしれませんが、今ダバオのJPVAの施設に全介護の必要な方が複数おります。24時間介護者がついて、それでいて滞在・介護料金は月10万円程です。ダバオとなると「なかなか決断がで

い」と思いますが、10月6日から1週間のダバオツアーがあります。まずはちよつと様子を見に行ってみてみることもできます。もし気に入れば、気晴らしに2から3ヶ月間滞在するのもよいでしょう。介護問題は国を超えて考えると、案外うまくいくものです。大変な方は一度ご相談(当寺玄間左のJPVA)ください。9月中旬頃までに申込みはまだ間に合います。

延浄寺のふれあいの会

今回は10月17日(土)午後5時~7時 原則として65歳以上の男性、つまみを2品以上お持ちください。参加自由です。近所・友人お誘いの上こられてもかまいません。2ヶ月に1回の割で行っています。12月は3日(木)を予定しています。現在17名です。

互いに知り合いになり、知らなかった興味ある話が聞けます。

延浄寺 うたごえの会

青山先生のアコーディオンで昔の懐かしい歌をみんなで歌います。一ヶ月一回最終金曜日です。参加は自由、ご近所の方をお誘いの上おでかけください。次回は9月25日(金)10時30分から12時まで 10月は30日同じ時間です

その他生け花、カラオケの会があります。

アルバイト募集

23日 延浄寺での彼岸手伝い。9時~4時まで7000円
高校生・大学生あるいは16歳以上の方、希望される方は03-3326-7333 7までお電話ください。10名まで切

お檀家へのお願い

本山から200万円の寄付割り当て
伝灯法要に向けての記念事業
5000円から1万円の
本山への寄付のご依頼

天から降ってきたような突然知らされた記念行事、門主が第24代大谷光真から第25代大谷光淳(専如)に代替わり(6月6日)した法要、親鸞聖人誕生850年を記念して宗門の活性化を図る為、総経費200億円の事業を本山が決め、末寺に割り当を決めた。当寺は200万円が懇志割り当。宗門総合振興計画として、ご門徒全員で支えるという意味合いもあり、協力頂ければと取り次ぎを致しました。当寺は寄付金などは頂かないことになっていますが、本山からの一方的な依頼ですので私も未消化のままお檀家にご依頼しているのが現状です。

計画は平成28年から平成35年までの8年間で、伝灯奉告法要が2年間にわたり本山御影堂と阿弥陀堂でつとめられます。

宗門総合振興計画は第25代光淳(専如)門主の消息、山積する現代社会の多くの課題に積極的に取り組んでいき、「自他共に心豊かに生きる事の出来る社会の実現に貢献する」道を開く。という施政方針を受け具体的な事業が決まっています。まず資金作りをして事業に割り振るといやり方で、本山から、末寺にそしてご門徒にという流れをつくっています。

当寺のお檀家へのお願いはあくまで、「できればお願い」ということで5千円から1万円を協力して頂きたく思います。同封した封筒に金額とご氏名を書き、お彼岸の時にお持ち下されば、ありがたく存じます。